

平成 28 年度四手井綱英記念賞 選考理由

受賞対象論文

大美博昭・日下部敬之．2015．淀川河口域におけるアユ仔魚の出現．地域自然史と保全，37（2）：103－114．

選考理由

本論文は2015年「地域自然史と保全」第37巻2号に掲載された原著論文である。夏場の河川中上流域での友釣りなどでよく知られるアユは、日本の代表的な淡水魚である。アユは両側回游魚であり、近年大阪湾に流入する複数の大型河川で若魚の遡上が報告されている。しかし、ふ化後から遡上をはじめるまでの仔稚魚期の大阪湾岸域での生態は、ほとんどわかっていない。

著者は、淀川の流程10kmに及ぶ河口域の中央部と沿岸部、さらに河口の沖合域においてアユ仔稚魚の出現状況を、2010年11月から2011年3月の4ヶ月にわたり定量的に調べた。その結果、10月下旬から11月下旬にふ化し河口域まで流下してきたアユ仔魚は河口域に留まり成長していることが明らかにされた。特に河口域の流程10kmに及ぶ岸沿いの浅場がこの時期のアユ仔魚にとって重要な成育場となっていることを明らかにした点は特筆すべきである。

大阪湾の海岸線は、そのほとんどがコンクリートの人工護岸で覆われており、アユ仔魚が成長できる生息環境はほとんどない。このため淀川河口域の岸沿いが流下したアユ仔魚にとって極めて重要な生息場所となっていると言える。このことは淀川以外の大阪湾に注ぐ大型河川においても河口域の岸沿いの浅場の意義が高いことを示唆している。

本研究は、淀川のアユ個体群を保全する上で、淀川の河口域の岸沿いの浅場の存在の重要性を示したものである。これらの知見は、大阪湾岸域における護岸のありかたにとっても貴重な情報となる。大阪湾に注ぐ大型河川に生息するアユの仔稚魚期の生態を明らかにし、その保全にとって貴重な知見を報告した点において貴重である。

以上のことから、本論文を高く評価し、ここに平成28年度四手井綱英記念賞を授与することとした。

関西自然保護機構編集委員会
四手井綱英記念賞選考委員会

＜編集後記＞

最近、ヒアリを筆頭に、カミキリムシ類など、外来種が社会的にも大きな話題となっています。本号には、外来種をテーマにしたシンポジウム、生物多様性と人を繋ぐシンポジウムの2テーマを特集しています。また、若手研究者の興味深い投稿論文など、充実した記事を多数、掲載することができました。

さて、コンパクトで充実した雑誌をめざして、編集後記を掲載しないスタイルをとっていましたが、本誌の編集および印刷体制を本号より変更しましたので、若干スペースをいただき、ご説明申し上げます。まず、これまで外部業者に委託していたレイアウトなどの編集業務を内部で行うこととしました。そのため、フォントなどがこれまでと若干異なります。印刷業者は価格などを勘案し、変更いたしました。これまでお世話になった光栄堂印刷株式会社には厚くお礼申し上げます。

この事に関連して、執筆要領なども次号より若干、改訂致しますが、めざすところは良質の地域自然史ジャーナルですので、これまでと同様、よろしくお願い致します。編集・印刷体制などにご意見などがありましたら、編集事務局までお寄せください。執筆要領は改訂次第、ホームページに掲載いたします。みなさまのご投稿を期待しています。

(前迫ゆり)

■ 関西自然保護機構ホームページ

<http://www.omnh.net/konc/>

■ 「地域自然史と保全」投稿規定・執筆要領

http://www.omnh.net/konc/toukou_kitei.pdf

■ 四手井綱英記念賞に関する内規

http://www.omnh.net/konc/shidei_naiki.pdf

■ 「地域自然史と保全」39巻1号のPDFは以下のURLにて公開しています。

ログインのためのIDとパスワードはKONCニュースをご覧ください。

http://www.omnh.net/konc/konc_member